

韓国環境公団との協力覚書締結

国際戦略室

5月18日の記者発表でお知らせしたとおり、JSは韓国環境公団（K-eco：Korea Environment Corporation）と、5月25日に協力覚書を締結しました。

2010年設立のK-ecoは、1980年代に設立された韓国資源再生公社と環境管理公団を母体とし、そのコアビジネスは、気候と大気、水と土壌、資源循環、環境インフラ、環境衛生、国際協力と多岐にわたります。従業員数は3,180人、そのうち740人が水部門の業務に従事しています。K-ecoはそのミッションとして「環境改善と資源循環の促進による環境立国への貢献」を掲げており、これはJSの「下水道ソリューションパートナーとして、技術、人材、情報等下水道の基盤づくりを進め、良好な水環境の創造、安全なまちづくり、持続可能な社会の形成に貢献」するという基本理念と大いに通じるものがあります。

JSとK-ecoとの直接のお付き合いは、私が把握している限りでは2014年10月が最初です。ソウルで開催された下水道の資産管理フォーラムにJS職員が参加した際、2日間にわたってK-ecoとの協議、情報交換が行われました。

その後定期的な交流はなかったものの、昨年春ごろから時折連絡が来るようになりました。それはJSへの訪問希望やWOW TO Japanプログラムへの関心などでしたが、昨年11月にK-ecoとJSの職員が大阪で協議する機会があり、その後先方から今回の覚書についての提案がありました。

細い糸でつながっていたK-ecoとJSでしたが、今回覚書を締結するに至ったのは、やはりご縁があったのだと感じています。

今回両者が締結した覚書（MOU：Memorandum of Understanding）には法的拘束力はありませんが、お互いの協力関係を目に見える形で確認し合う点に意義があると考えます。具体的な協力の範囲は以下の通りです。

- a) 下水道に関する技術開発、及び/又は、下水道に関する共同研究開発に関する情報交換
- b) 下水道分野におけるグローバルなパートナーシップとネットワークの強化
- c) 技術や人材交流など、協力分野の拡大
- d) 下水道事業推進分野の研修・教育等の能力向上プログラムの開発
- e) その他、両者が合意したもの

調印式を5月25日に日本で行う事は前年度中に決定されましたが、筆者自身が先方の担当者とメールのやり取りを始めたのは4月の2週目に入ってからでした。既に予定が入っ

ていた会議室を調印式のために譲って頂いたり、会議室で実際に写真を撮って予行演習を行ったり、他部署の皆さんには大変お世話になりました。

今回の調印式準備に当たって最も時間を費やしたのは、当然ですが、MOU 本文の校正作業でした。修正と確認を繰り返した結果、最終版は第 13 版になっていました。

直前になって K-eco 側に MOU の協力範囲について 1 件追加を提案されたのですが、時間的に難しい事が判明し、締結後に上記 e) のカテゴリの中で協議することになりました。今後も修正や追加すべき点が浮上すると思われそうですが、その都度協議を重ね、覚書の内容がより充実したものになることを期待したいと思います。

韓国とのやり取りは最初メールでしたが、だんだん追いつかなくなり、途中でメッセージアプリの QR コードが送られてきました。「Hello」と送ったら「こんにちは」と返事が来て拍子抜けしましたが、メッセージの主は、京都大学の下水処理研究室で学位を取った、鄭（ジョン）さんでした。この鄭博士が通訳を買って出て下さり、今回の調印式はすべて日本語で執り行われました。

今回、MOU の内容など重要な件は英語を使ってメールでやり取りをしましたが、当日のドレスコードや記念品の内容など、どちらかという軽い内容のやり取りはメッセージアプリを使えたため、とても効率的でした。

余談になりますが、実はこのアプリで最初に依頼されたのは、レストランの予約でした。結局彼らが東京にいる間に食事する場所を全てアレンジすることになったのですが、ドタキャンもなく、予約に遅れそうなときはちゃんと連絡を下さるなど、何だか日本人に似ていてとても親しみを感じました。来日前はプレゼンの準備もあって大忙しだったと思いますので、少しでもお役に立てて良かったと思います。と同時に、自分が行ったこともないお店を紹介したのは無責任だったかなと反省し、遅ればせながら最近そのうちの 1 軒に行ってみました。悪くないお店で、少し安心したことをここにご報告いたします（余計な情報ですが。）

今後、MOU 締結を機に K-eco と交流を重ね、具体的な成果につながるよう活動を続けていきたいと思っています。